

2020年度 第4回 理事懇談会 抄録

日時： 2020年10月10日（土） 15：40～17：00
場所： WEB会議
出席： 理事： 半田、内山、斉藤、森本
 網本、大淵、小川、梶村、清宮、黒澤、佐々木、白石、大工谷、高橋（哲）、
 高橋（仁）、田中、谷口、友清、中川、藤澤、松井、山根、吉井
 監事： 太田、長澤、辺士名
欠席者 理事： なし
 監事： なし

I. 協議事項

（全2題）

1. 診療報酬研修会への費用支弁について

（大工谷専務理事）

前回の理事会報告を受けて、標記研修会開催に関する企画・運営を日本理学療法士連盟に依頼してきた件について、過去5年間（それ以前は実績なし）の費用支弁が報告され、今後の本会と連盟との関係性、研修会実施における費用支弁について協議された。

【主な意見】

- ・開催内容を見ると、厚労省及び協会理事・職員が講師と、協会でも実施できる内容だ。連盟はどういう役割を持ったのか。
- 協会でも実施はできるだろうが、連盟の事業として行った研修会である。連盟が広報のルートを持っていない中で、協会も共催として入り、広報と費用の一部として会場費を負担した。
- 政治活動の重要性を当時の理事は共通認識で持っていたと思う。今後、費用が掛かる場合に透明性をもって進めていくことが担保されればよいのではないか。
- ・共催の研修会であれば、収益も費用も折半すべきで、協会が受け取るべきものを受け取っていないのではないか。
- 契約内容による。本件は協会が会場費を負担する契約であった。
- このような研修会は連盟の主催とし、協会は協賛・後援とし、協力にあたって費用が発生するのであれば、そこは契約で定めるという形がよいのではないか。

2. 訪問リハビリテーション振興財団の総括

(大淵理事)

訪問リハビリテーション振興財団の総括および事業の妥当性について協議された。

【主な意見】

- ・ 訪リハステーションを被災地特区で行っている。これはそもそも被災地支援として始まったもので、沿岸部においては日本の超高齢化のなかでの資源のモデルとして、また、自治体の方から要望があって始まった。特区の延長、再延長をしてきたが、ここにきて更なる延長は難しいとなったが、地元の方から事業所を縮めることはないよう意見があり、今ある仕組みとして訪看ステーションを立ち上げることを急いでいるという話を前回の理事会でお伝えした。終息する段階の事業ではないことをご理解いただきたい。
- ・ 協会からの拠出金はスタートアップのための資金のみで、総会でも理事会でも承認いただいている。その後、資金ショートして追加で資金を注入したことはない。

以上